



# 第7回横幹連合コンファレンス開催報告

本多 敏\*1・西村 秀和\*2・滑川 徹\*3・小池 綾\*4・船橋 誠壽\*5

2016年11月18日(金)19日(土)20日(日)の3日間、慶應義塾大学日吉キャンパス(神奈川県横浜市)にて第7回横幹連合コンファレンスを開催いたしました(Fig. 1参照)。2015年開催の第6回までは横幹連合総合シンポジウムとの隔年開催でしたが、今回から毎年開催することとなりました。

横幹連合コンファレンスは、横断型基幹科学技術の発展と振興をめざして活動している文理にまたがる会員学会が、その学問領域での現実的課題と知識を共有化・普遍化する場であると同時に、会員学会間の交流の場となりました。

創立10周年を迎えた際に制定した「横幹中長期ビジョン2014」では、最初の10年を横幹科学技術の「認知」の期間と総括し、そして次の10年を「実践」の期間と位置付けました。横幹連合とその会員学会が、知の統合を推進するための知識体系である「横幹技術」を具体的に見せるか、「横幹技術」を適用したことで生まれる価値(あるいは成果物)を人々に指し示すことができるようにすることを目指します。

これらを背景に、実行委員会、横幹連合企画・事業委員会での議論の結果、大会テーマを「つながるヒト・モノ・コミュニティ～コトづくりの社会実装～」といたしました。2016年1月に閣議決定された第5期科学技術基本計画では超スマート社会(Society 5.0)が謳われており、システム科学を中心とした文理の壁を超えた活動をしている横幹連合の貢献が期待されているということを受けてのことでした。Society 5.0の実現に向けて横幹連合の「横幹知」を社会に実装するために、ヒト・モノ・コミュニティをどうつなげるかということテーマとして横幹連合参加学会の「知」を結集する場とすることを目指しました。Society 5.0に向けての取り組みについて行った会員学会へのアンケート結果では、温度差が



Fig. 1: コンファレンスポスター (デザイン: 松岡由幸慶大教授)。

あり必ずしもすべての会員学会が賛同を表明されたわけではありませんが、Society 5.0に向けて横幹連合の事業として推進したいということから、大会テーマを設定いたしました。

そのために、議論を充実させたいということから、昔に戻って、4パラレルセッションを基本とし、1講演25分とし、十分に時間をとるために3日間での開催といたしました。これまでと同様に、オーガナイザの依頼、講演募集をいたしましたところ22のオーガナイズドセッション、一般講演2セッション、のべ27セッションで112件の講演が行われました。内訳は、「システム、ネットワーク、コミュニティ、超スマート社会」など大会テーマを反映したタイトルを持つ12のセッションと、超スマート社会へとつながる基礎をささえる横幹知をテーマ

\*1 第7回横幹連合コンファレンス実行委員長・慶應義塾大学  
\*2 同プログラム委員会委員長・慶應義塾大学  
\*3 同実行委員会副委員長・慶應義塾大学  
\*4 同実行委員会幹事・慶應義塾大学  
\*5 同プログラム委員会副委員長・北陸先端科学技術大学院大学

Received: 31 January 2017, Revised: 10 February 2017

とする 10 のセッションからバランスよく構成されました。セッションタイトルとオーガナイザは以下のとおりです。

- 行動意思決定科学の応用 (高橋泰城・北海道大学)
- 超スマート社会のデザインと実装 (平井千秋・日立製作所)
- 新たなシステムズアプローチの展開 (中森義輝・北陸先端科学技術大学院大学)
- 健康ライフログデータ分析とヘルスケア (小木哲朗・慶應義塾大学)
- システム科学技術システムの時代に向けて (玉置久・神戸大学, 黒江康明・京都工芸繊維大学)
- 災害から真に強靱な社会とは? - 防災学術連携体に参画して - (出口光一郎・東北大学)
- 社会インフラの高度化に向けた新システム開発の課題 (河野克己・大阪工業大学)
- モノづくりの要素技術とシステム技術 (保坂寛・東京大学, 青山英樹・慶應義塾大学)
- 横断型人材育成と初等中等教育 (鈴木和幸・電気通信大学)
- システムズ・マネジメント諸分野の現状と将来 (椿広計・統計センター)
- 経営高度化へのマトリクス・アプローチと意思決定プロセス化の適用 (大場允晶・日本大学)
- 地域につくるイノベーション・プラットフォーム“横幹知”の定義と役割 (佐藤千恵・(有)ビズテック/静岡大学)
- デザイン力と未来型イノベーション創出 (永井由佳里・北陸先端科学技術大学院大学)
- システム・計測制御技術と超スマート社会 (滑川徹・慶應義塾大学)
- ヒト・モノ・コミュニティをつなぐサービスの創生 (水流聡子・東京大学)
- 経験知を活かす防災・減災へのアプローチ (有馬昌宏・兵庫県立大学)
- ヒト・モノ・コミュニティをつなぐ情報の価値とコミュニケーション・ネットワーク (川中孝章・東京大学)
- 地域コミュニティをいかに再生するか - Society 5.0 を展望しつつ (遠藤薫・学習院大学)
- “サービス工学 × ビッグデータ”の可能性 (岡田幸彦・筑波大学)
- 「グローバル製品サービス戦略プロデューサー (Global-PSLM)」育成プログラムの産学共同研究開発 (玉木欽也・青山学院大学)
- コトづくりとヒトづくり - 知の統合を体現する人材の育成 (本多敏・慶應義塾大学)
- 日本の Wellbeing を促進する情報技術ガイドラインの必要性 (安藤英由樹・大阪大学)

参加者は会員学会会員 141 名, 一般 23 名, 学生 31 名の 195 名と, 中日は冷たい雨が降るといふ悪条件の中, 予想を上回る大盛況となりました。オーガナイザの先生方並びにご参加いただいた皆様に感謝いたします。

大会テーマに合わせて、「人工知能と人間・社会 — 第 4 次産業革命を超えて」と題して, AI ネットワーク化検討会議座長の東京大学教授須藤修先生に基調講演をいただきました。「人々がインテリジェント ICT と共存し, データ・情報・知識を自由かつ安全に創造・流通・連結して智のネットワークを構築することにより, あらゆる分野におけるヒト・モノ・コト相互間の空間を超えた協調が進展し, もって創造的かつ活力ある発展が可能となる, 智連社会」についてお話しいただきました。また, 人々が働かなくても維持できるベーシックインカム保障社会で, 人々は何を拠所に生きてゆくべきか, 智慧の継承をどのように行うのか, AI 研究開発のガイドラインを国際協調の下に構築する必要がある, ICT・ナノ・バイオの出現によって既存の専門領域の境界は崩壊するなど, 横幹連合に対するいろいろな課題を提起いただきました。



Fig. 2: 須藤先生特別講演。

また企画・事業委員会企画として, パネル討論会「Society 5.0 (超スマート社会) をつくる — システム科学を中心とした文理をまたぐ横幹連合の寄与を議論」を開催いたしました。パネリストとして

- ・ 原山優子氏 (総合科学技術・イノベーション会議常勤議員)
- ・ 高西淳夫氏 (日本ロボット学会会長・早大)
- ・ 田中秀幸氏 (社会情報学会副会長・東大)
- ・ 椿広計氏 (日本品質管理学会会長・統計センター)
- ・ 前田章氏 (計測自動制御学会会長/情報処理学会副会長・日立)

の方々にご登壇いただき, 船橋誠壽副会長の司会のもとでまず 4 名のパネリスト (会長・副会長) の方々からそ



Fig. 3: パネル討論会（パネリストの方々）。

それぞれの学協会の取り組みについて基調報告をいただき、原山先生から科学技術基本計画を踏まえてコメントをいただきました。その後の討論では2つのテーマでパネリスト、参加者からの意見をいただきました。

「スマート化を阻害するタテ割り」のテーマでは、「フィジカルな制約をサイバーが変える、共有の学問がなければタテ割りを崩せない－横幹連合はそのためにある、今あるのは歴史の積み重ねであり縛りを解き可能性を広げることが大切、蛙飛びのポテンシャルを持つアフリカに学ぶ、子供の教育をあらためてタテ割りを崩す」などが議論されました。

続いての「アジャイル・ガバナンス」のテーマでも「変革の時代にあっては移行管理（Transition Management）という政策が必要、制御では当たり前の相手のダイナミクスを取り入れることが大切、開発・運用一体化がソフトウェア世界では挑戦されている」など、活発な意見交

換が行われました。

先に述べましたように、110数名の登壇者に対して、聴講のみを目的に約80名の参加があったのは、大会テーマ企画の特別講演とパネル討論会の寄与が大きかったと推察しています。この2企画のみ参加する方には、聴講料を徴収せず無料で開放いたしました。この2企画のみを無料で聴講された方は、予想に反し10名に至りませんでした。興味を持たれた大半の方々は、セッションも聴講していただけたようです。もう一つの要因として、鈴木会長、船橋・遠藤両副会長と事務局が、会員学会事務局を訪問し先方の会長・担当理事と意見交換を続けていたことも参加者増に寄与したと評価しています。

懇親会は、48名にご参加いただき、特別講演をいただいた須藤先生はじめ討論の輪が広がりました。冒頭で、鈴木会長の挨拶に続き、コンファレンスの共催団体である慶應義塾大学理工学部・理工学研究科を代表し青山藤詞郎学部長より歓迎の挨拶をいただきました。学部助成金からの財政援助もあったことを付記いたします。

中締めの前には、恒例により次回第8回コンファレンス（実行委員長・立命館大学田中覚教授）について、実行委員会幹事の同長谷川恭子先生より、会場となる立命館大学朱雀キャンパスをご紹介いただき、開催期日が12月2日（土）3日（日）となることがアナウンスされました。本記事をご覧ください。時期には、京都開催らしい魅力的な大会テーマが発表されていると思います。皆様方のふるってのご参加を期待いたします。

最後に、コンファレンスにご参加いただき、討論を盛り上げていただいた皆様に実行委員会・プログラム委員会一同より深く御礼申し上げます。ありがとうございます。